

日商簿記2級工業簿記 ステップアップ問題集



簿記を経理担当者だけが必要とする知識と考えている方が多くいます。しかし、昨今のきびしい経済状況を考えると、企業の経営状態を数値化し、客観的に示すことのできる簿記の技術を身に付けることはビジネスマンにとって必須です。

簿記を学ぶことによって、企業の採算性、コスト管理、さらには、資金繰りといった企業の運営にとって必要な知識を身に付けることができます。また、これを基に、企業が将来進むべき方向性も明確になります。

この簿記の知識を身に付けるため、日本商工会議所が主催する簿記検定試験（通称、日商簿記検定）にチャレンジすることはたいへん有意義なことです。

本書は日商簿記検定2級に合格するための実力を養成することを主眼に作成しました。本書をフルに活用し、本試験問題を確実に解答できる力を身に付けてください。

本書を学習された皆さんが合格することを心よりお祈り申し上げます。

本書の特長

学習効率を上げるため
テーマごとにまとめています。

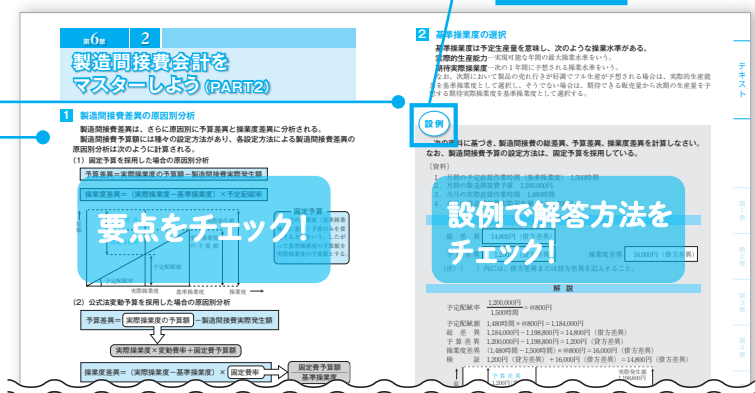
第1章-1 工業簿記の基礎をマスターしよう				
番号	レベル	内容	問題頁	解答頁
1	基本	原価の分類	P.4	P.126
2		原価の分類	P.4	P.126
3	応用	原価の分類	P.5	P.126

INPUT

〔基本知識／解答方法の確認〕

基本的な論点を確認した後、実際に数値を使い解答方法を確認します。

設例

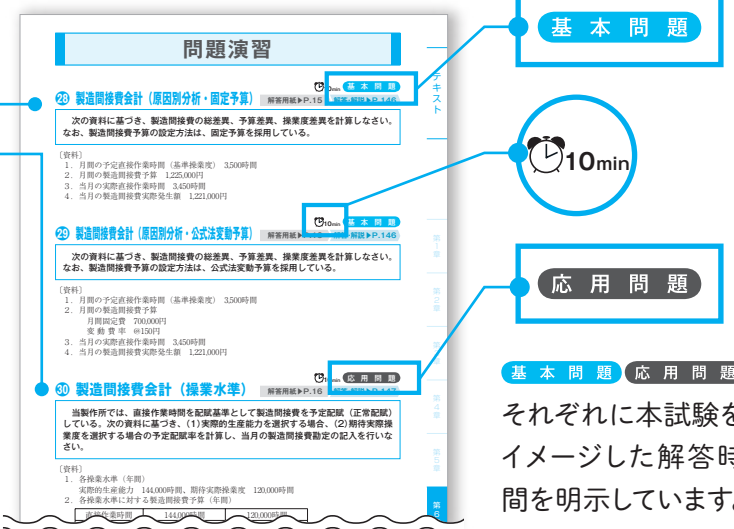


OUTPUT

〔基本問題／応用問題を解く〕

基本問題で知識の確認ができたら応用問題で本試験レベルの問題にチャレンジ!

基本問題



應用問題

基本問題 応用問題

それぞれに本試験をイメージした解答時間を明示しています。

学習の状況をチェック!

解答の正誤などを常にチェックすることにより、苦手科目や重点的に復習すべき所を把握できます。

- なかなか復習の時間が取れない方は、過去問を解く前に間違えた箇所を再度チェック!

コンテンツ&チェックシート

CONTENTS & CHECK SHEET

※チェック欄は解答後に記入しましょう。記入することにより苦手科目を把握し、どこを重点的に復習すべきかにご利用ください。

第1章-1 工業簿記の基礎をマスターしよう					
番号	レベル	内容	問題頁	解答頁	チェック欄
1	基本	原価の分類	P.4	P.126	✓
2		原価の分類	P.4	P.126	✓
3		原価の分類	P.5	P.126	✓
第2章-1 工業簿記一巡をマスターしよう(PART1)					
4	基本	工業簿記一巡	P.8	P.126	✓
第2章-2 工業簿記一巡をマスターしよう(PART2)					
5	基本	工業簿記一巡 (製品の販売)	P.10	P.127	✓
6		工業簿記一巡 (月次決算)	P.10	P.128	✓
7		工業簿記一巡	P.11	P.128	✓
第3章-1 材料費会計をマスターしよう(PART1)					
8	基本	材料費会計 (材料の購入)	P.13	P.129	✓
第3章-2 材料費会計をマスターしよう(PART2)					
9	基本	材料費会計 (実際消費価格)	P.16	P.129	✓
10		材料費会計 (実際消費価格)	P.16	P.130	✓
11		材料費会計 (予定消費価格)	P.16	P.131	✓
12		材料費会計 (材料割当、残材戻入)	P.17	P.133	✓
13	応用	材料費会計 (材料割当、予定消費価格)	P.18	P.133	✓
第4章-1 労務費会計をマスターしよう(PART1)					
14	基本	労務費会計 (二勤定額)	P.21	P.135	✓
15		労務費会計 (一勤定額)	P.21	P.136	✓
第4章-2 労務費会計をマスターしよう(PART2)					
16	基本	労務費会計 (消費額の計算)	P.24	P.137	✓

解答用紙が!!

抜き取り方式になっており、
学習の際に便利です!

- 解き直しには資格の大原書籍販売サイト大原ブックストア内の「解答用紙 DL サービス」をご利用ください!



★ 関連法規改正にいち早く対応

関連法規改正にいち早く対応しています。近年の日本の会計は、頻繁に改正が行われています。それに伴い、現在の会計に沿う内容に修正しておりますので、現行法令等に沿った内容で解答することができます。

日商簿記2級工業簿記
ステップアップ問題集

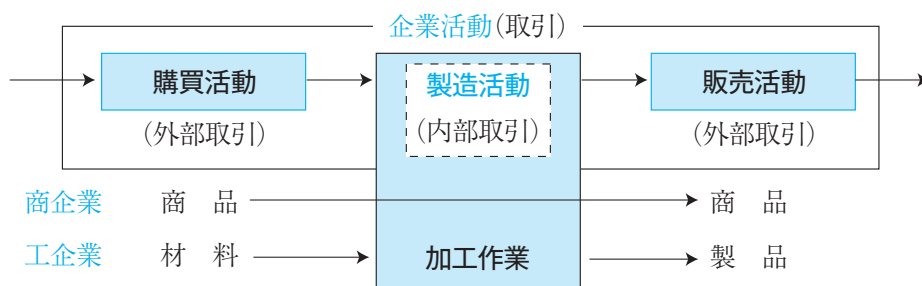
問題編

工業簿記の基礎を マスターしよう

1 工業簿記

工企業（製造業）に適用される簿記をいう。工企業は、材料や労働力、生産設備を購入し、これらを消費することによって製品を製造し、販売する。

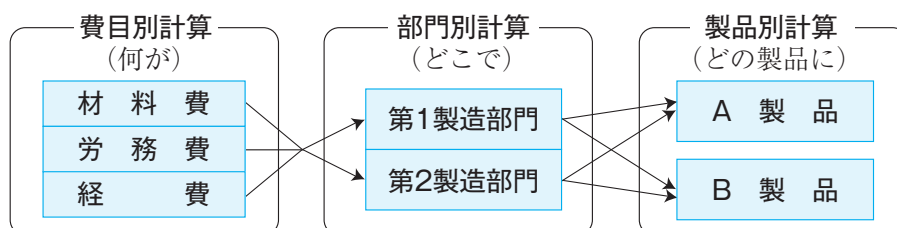
よって、工業簿記の特徴は、製造活動の記録を行うことである。



2 原価計算

原価計算とは、「生産された製品の原価はいくらなのか」を計算することをいう。

なお、製品の原価は、製品を製造するためにかかった金額をもとに計算され、通常、3つの計算段階を経て行われる。なお、手続きを示すと次のようになる。



※ なお、原価計算期間は通常、暦の1カ月（毎月1日から末日まで）である。

3 原価

(1) 原価の分類

原価（総原価）とは、企業の製造活動、販売活動および一般管理活動でかかった費用であり、次のように分類される。

総 原 価	製 造 原 価	材 料 費	工場で製品の製造に要した物品の消費高
		労 務 費	工場で製品の製造に要した労働力の消費高
		経 費	工場で製品の製造に要した物品、労働力以外の消費高
	販 売 費	営業所において製品の販売にかかった費用	
	一般管理費	本社において企業全般の管理にかかった費用	

また、上記以外の費用を非原価項目といい、支払利息や固定資産売却損などがある。

(2) 製品との関連による分類

製造原価は、特定の製品を製造するためにいくらかったか、直接認識・計算されるか（製造直接費）否か（製造間接費）により、次のように分類される。

製造原価の分類		製品との関連による分類	
		製造直接費	製造間接費
形態別分類	材 料 費	直接材料費	間接材料費
	労 務 費	直接労務費	間接労務費
	経 費	直接経費	間接経費

また製造原価は、直接材料費と加工費に分類する場合がある。

直接材料費…製品の主な部分を構成する物品の消費高

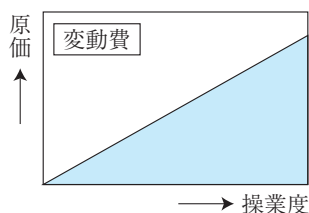
加 工 費…直接材料を加工するために要した労働力の消費高

(3) 操業度との関連による分類

工場の生産設備を一定とした場合、その利用程度（操業度）の増減に対して原価がどのように発生するかにより、次のように分類される。

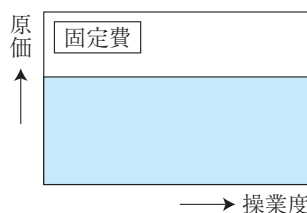
変動費…比例的に発生する原価

例) 直接材料費



固定費…一定額発生する原価

例) 減価償却費、固定資産税



4 製品別計算の方法

製品の生産方法の違いにより、次のいずれかが適用される。

個別原価計算…顧客の注文に応じて特定の製品を製造する個別受注生産形態に適用される原価計算であり、造船業などの業種に用いられる。

総合原価計算…同じ製品を大量に製造する大量見込生産形態に適用される原価計算であり、衣料品製造業などの業種に用いられる。

なお、製品別計算の違いにより、製造原価の分類は異なる。その関係を示すと次のようになる。

〈個別原価計算の場合〉			〈総合原価計算の場合〉	
材 料 費		直接材料費		直接材料費
		間接材料費		加 工 費
労 務 費		直接労務費		
		間接労務費		
経 費		直接経費		
		間接経費		

設例

次の項目は、製造原価、販売費、一般管理費のどれに該当するかを答えなさい。

- | | | |
|-------------|----------------|-----------|
| 1. 本社従業員の給料 | 2. 新製品発表会の費用 | 3. 工場の水道代 |
| 4. 工場従業員の賞与 | 5. 営業所建物の減価償却費 | 6. 本社の電力料 |

解 答

1	一般管理費	2	販 売 費	3	製 造 原 価	4	製 造 原 価
5	販 売 費	6	一般管理費				

解 説

1. 本社は主に管理活動を行っているため、本社での費用は一般管理費となる。
2. 製品を販売するために発生した費用であるため販売費となる。
3. 工場は製造活動を行っているため、工場での費用は製造原価となる。
5. 営業所は販売活動を行っているため、営業所の費用は販売費となる。

問題演習

① 原価の分類



基本問題

解答用紙 ▶ P.2 解答・解説 ▶ P.126

解答欄の項目のうち、製造原価は○、販売費は△、一般管理費は×をつけなさい。

② 原価の分類



基本問題

解答用紙 ▶ P.2 解答・解説 ▶ P.126

次の資料に基づき、解答欄の各項目の金額を計算しなさい。

直接材料費	345,000円	間接材料費	165,000円
直接労務費	270,000円	間接労務費	180,000円
直接経費	60,000円	間接経費	255,000円
販売費	127,500円	一般管理費	97,500円

③ 原価の分類

解答用紙▶P.2 解答・解説▶P.126

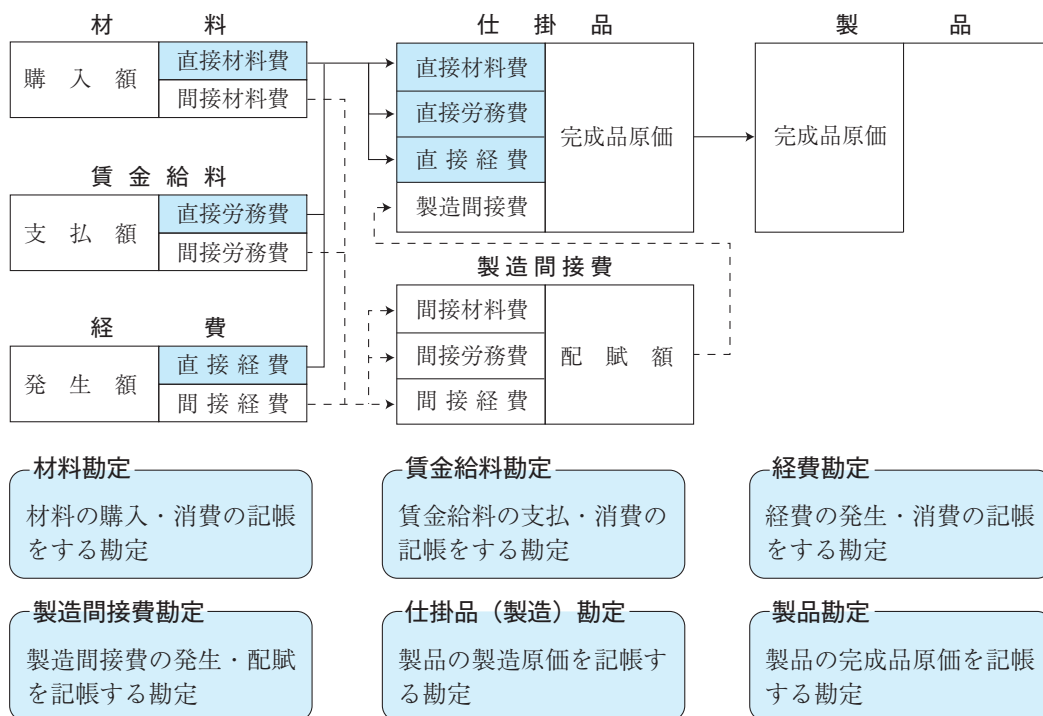
次の項目につき、製造原価にはA、販売費にはB、一般管理費にはC、非原価項目にはDを記入しなさい。

- | | | |
|---------------|-----------------|------------|
| 1. 工員募集費 | 2. 工場消耗品費 | 3. 販売員手数料 |
| 4. 工場の旅費交通費 | 5. 工場火災による損失額 | 6. 営業所職員給料 |
| 7. 重役室費 | 8. 工場機械の減価償却費 | 9. 工場固定資産税 |
| 10. 工員の福利厚生費 | 11. 借入金に対する支払利息 | 12. 本社企画部費 |
| 13. 会社が支払う法人税 | 14. 本社役員給料 | 15. 掛売集金費 |
| 16. 工場の光熱費 | 17. 製品の出荷運送費 | 18. 工員訓練費 |

工業簿記一巡を マスターしよう (PART1)

1 工業簿記の記帳体系

工業簿記において、製造活動の記録を行う場合の記帳体系は、次のようになる。



設例

次の取引の仕訳と勘定への転記を行いなさい。

- (1) 材料40,000円を掛で購入した。
- (2) 材料30,000円を直接材料費として20,000円（製品A 11,000円、製品B 9,000円）、間接材料費として10,000円を消費した。
- (3) 賃金給料60,000円から預り金7,000円を差し引き、残額を現金で支払った。
- (4) 賃金給料のうち直接労務費として40,000円（製品A 25,000円、製品B 15,000円）、間接労務費として20,000円を消費した。
- (5) 経費40,000円を現金で支払った。
- (6) 経費のうち直接経費として10,000円（製品A）、間接経費として30,000円を消費した。
- (7) 製造間接費60,000円を一定の基準により製品Aに35,000円、製品Bに25,000円を配賦した。
- (8) 製品A（製造原価：81,000円）が完成した。

解 答

(1) 材料の購入

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
材 料	40,000	買 掛 金	40,000

(2) 材料の消費

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
仕 掛 品	20,000	材 料	30,000
製 造 間 接 費	10,000		

(3) 賃金給料の支払い

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
賃 金 給 料	60,000	預 り 金	7,000
		現 金	53,000

(4) 賃金給料の消費

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
仕 掛 品	40,000	賃 金 給 料	60,000
製 造 間 接 費	20,000		

(5) 経費の支払い

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
経 費	40,000	現 金	40,000

(6) 経費の消費

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
仕 掛 品	10,000	経 費	40,000
製 造 間 接 費	30,000		

(7) 製造間接費の配賦

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
仕 掛 品	60,000	製 造 間 接 費	60,000

(8) 製品の完成

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
製 品	81,000	仕 掛 品	81,000

材 料		仕 掛 品	
(1) 買 掛 金 40,000	(2) 仕 掛 品 20,000 〃 製造間接費 10,000	(2) 材 料 20,000 (4) 賃 金 給 料 40,000 (6) 経 費 10,000 (7) 製造間接費 60,000	(8) 製 品 81,000
賃 金 給 料		製 造 間 接 費	
(3) 預 り 金 7,000 〃 現 金 53,000	(4) 仕 掛 品 40,000 〃 製造間接費 20,000	(2) 材 料 10,000 (4) 賃 金 給 料 20,000 (6) 経 費 30,000	(7) 仕 掛 品 60,000
経 費			
(5) 現 金 40,000	(6) 仕 掛 品 10,000 〃 製造間接費 30,000		

解 説

工業簿記を理解するためには、記帳体系「勘定の流れ」を覚えることが重要である。
工業簿記の勘定記入は、相手科目が複数あっても通常「諸口」は使用しないで相手科目を明示する。

問題演習

4 工業簿記一巡



15min

基 本 問 題

解答用紙▶P.3

解答・解説▶P.126

次の取引の仕訳と勘定記入を行いなさい。なお、勘定記入については、相手科目と金額のみでよい。

- ① 材料400,000円を掛で仕入れた。
- ② 材料を直接材料費として製品Aに250,000円、製品Bに100,000円および間接材料費として40,000円消費した。
- ③ 賃金給料180,000円を所得税預り分20,000円を差し引き現金で支払った。
- ④ 労務費を直接労務費として製品Aに60,000円、製品Bに70,000円および間接労務費として50,000円消費した。
- ⑤ 経費100,000円を現金で支払った。
- ⑥ 経費を直接経費として製品Aに15,000円、製品Bに24,000円および間接経費として61,000円消費した。
- ⑦ 製造間接費151,000円を製品Aに71,000円、製品Bに80,000円配賦した。
- ⑧ 製品A（製造原価396,000円）が完成した。

工業簿記一巡を マスターしよう (PART2)

1 製品の販売

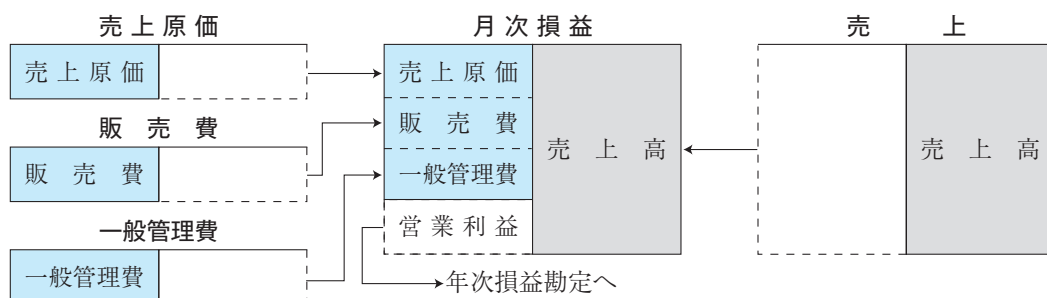
工業簿記の場合は、製品を販売した際、売上高に関する記帳以外に販売された製品の製造原価（売上原価）に関する記帳も同時に行う。なお、記帳体系を示すと次のようになる。



2 工業簿記の月次決算

工業簿記の決算には、一原価計算期間を前提として毎月末に月次決算を行う場合がある。

月次決算では、主たる営業活動によって生じた収益および費用を月次損益勘定に振り替える。次に月次損益勘定の貸借差額は、営業利益を示し、年次損益勘定に振り替える。なお、記帳体系を示すと次のようになる。



製造活動を記録する諸勘定は、貸借一致を確かめた後に締め切る。なお、月末に残高が生じる諸勘定は、次のように締め切られる。

材 料	
×/1 前月繰越 ×××	×/× 仕 掛 品 ×××
× 買 掛 金 ×××	× 製造間接費 ×××
	31 次月繰越 ×××
	×××
×/1 前月繰越 ×××	

仕 掛 品	
×/1 前月繰越 ×××	×/× 製 品 ×××
× 材 料 ×××	31 次月繰越 ×××
× 賃金給料 ×××	
× 経 費 ×××	
× 製造間接費 ×××	
×××	×××
×/1 前月繰越 ×××	

設例

次の資料に基づき、月次決算に関する仕訳を行いなさい。

〔資料〕 10月31日における各勘定残高（単位：円）

売 上：4,750,000 売 上 原 価：2,850,000 販 売 費： 712,500
一般管理費： 237,500

解 答

(1) 主たる営業活動により生じた収益、費用に関する振替仕訳

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
月 次 損 益	3,800,000	売 上 原 価	2,850,000
		販 売 費	712,500
		一 般 管 理 費	237,500
売 上	4,750,000	月 次 損 益	4,750,000

(2) 月次損益勘定（営業利益）の振替仕訳

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
月 次 損 益	950,000	年 次 損 益	950,000

解 説

(2) 月次損益勘定の貸借差額950,000円（収益：4,750,000円－費用：3,800,000円）は、貸方残高であり、月次損益勘定の借方から年次損益勘定の貸方に振り替える。

問題演習



5min 基本問題

⑤ 工業簿記一巡（製品の販売）

解答用紙▶P.4

解答・解説▶P.127

次の取引の仕訳を行いなさい。

製品A（製造原価400,000円）を販売し、代金は掛とした。なお、販売価格は製造原価の25%増であった。



5min 基本問題

⑥ 工業簿記一巡（月次決算）

解答用紙▶P.4

解答・解説▶P.128

次の資料に基づき、月次決算に関する仕訳を行いなさい。

〔資料〕 月末における各勘定残高（単位：円）

売 上：6,000,000 売 上 原 価：3,300,000 販 売 費：1,080,000
一般管理費： 420,000

- 主たる営業活動により生じた収益、費用に関する振替仕訳
- 月次損益勘定（営業利益）の振替仕訳

7 工業簿記一巡

解答用紙▶P.4

解答・解説▶P.128

次の勘定記入に基づいて、仕訳を示しなさい。

材 料		仕 掛 品	
前月繰越	23,000	仕掛品	100,000
買掛金	187,000	製造間接費	81,000
		次月繰越	29,000
	<u>210,000</u>		<u>210,000</u>
賃 金 給 料		仕 掛 品	
預り金	28,000	仕掛品	173,000
現金	212,000	製造間接費	67,000
	<u>240,000</u>		<u>240,000</u>
経 費		仕 掛 品	
現金	180,000	仕掛品	35,000
		製造間接費	145,000
	<u>180,000</u>		<u>180,000</u>

仕 掛 品		製 品	
前月繰越	137,000	製品	580,000
材料	100,000	次月繰越	158,000
賃金給料	173,000		
経費	35,000		
製造間接費	293,000		
	<u>738,000</u>		<u>738,000</u>
月 次 損 益		売 上	
売上原価	560,000	売上	672,000
販売費	20,000		
一般管理費	18,000		
年次損益	74,000		
	<u>672,000</u>		<u>672,000</u>

材料費会計を マスターしよう (PART1)

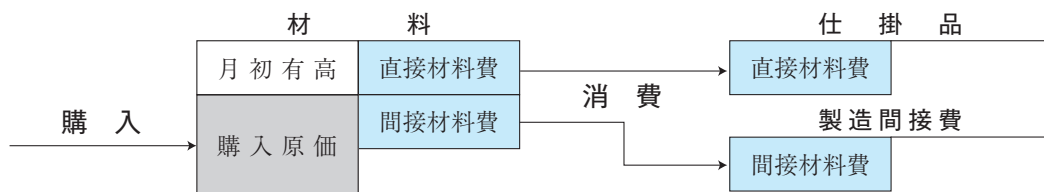
1 材料費の分類

材料費は、次のように分類される。

形態別分類（どのように発生したのか）		製品との関連による分類	
買入部品費	外部から購入されるもの	主要材料費 補助材料費	直接材料費
素材費(原料費)	「物理的」、「科学的」な加工がなされるもの		
燃料費	熱源として使用されるもの		間接材料費
工場消耗品費	補助的に使用されるもの		
消耗工具器具備品費	耐用年数1年未満または比較的価格の低いもの		

2 材料に関する記帳

材料に関する記帳体系を示すと次のようになる。



3 材料の購入原価の計算と記帳

材料の購入原価は、次のように計算・記帳される（掛仕入で付随費用現金払いの場合）。

$$\begin{array}{rcl}
 \text{(材 料)} & \times \times \times & \text{(買 掛 金)} \quad \times \times \times \\
 & \uparrow & \text{(現 金)} \quad \times \times \times \\
 \text{購入原価} & = & \text{購入代価} + \text{付随費用 (材料副費)}
 \end{array}$$

※ 材料副費

材料副費は、材料を購入してから庫出するまでに付随して発生した費用であり、以下のように分類される。

外部材料副費…材料の仕入先から納入されるまでにかかる材料副費

例えば、買入手数料、引取運賃などの引取費用

内部材料副費…材料の発注手続き、倉庫への搬入・保管、作業現場に庫出しされるまでの材料副費

例えば、購入事務費、検収費、保管費などの材料取扱費

内部材料副費を購入代価に加算する場合、購入時点で発生額が判明しないため、予定額を計算し、加算する。なおこの場合は、次のように仕訳される。

$$\begin{array}{rcl}
 \text{(材 料)} & \times \times \times & \text{(買 掛 金)} \quad \times \times \times \leftarrow \text{購入代価} \\
 & & \text{(現 金)} \quad \times \times \times \leftarrow \text{外部材料副費} \\
 & & \text{(材 料 副 費)} \quad \times \times \times \leftarrow \text{内部材料副費}
 \end{array}$$

次の取引の仕訳と材料勘定への転記を行い、さらに材料元帳にも記入しなさい。

6月3日 A材料500個（@450円）を掛で仕入れた。なお、引取運賃9,000円は現金で支払った。

解 答

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
材 料	234,000	買 掛 金	225,000
		現 金	9,000

材 料

6/3	買 掛 金	225,000
〃	現 金	9,000

材 料 元 帳

A 材 料

日 付	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数量 個	単価 円	金 額 円	数量 個	単価 円	金 額 円	数量 個	単価 円	金 額 円
6 3	購 入	500	468	234,000				500	468	234,000

解 説

材料元帳は、材料の種類ごとに口座を設け、材料の受け入れ、払い出しの明細を記録し残高を明らかにする補助元帳である。記入方法は、3級で学習した商品有高帳と同様である。

問題演習



基本問題

⑧ 材料費会計（材料の購入）

解答用紙▶P.6

解答・解説▶P.129

次の取引の仕訳を行いなさい。

- ① 6月3日 A材料100個（@300円）を掛で仕入れた。なお、引取運賃1,200円は現金で支払った。
- ② 9日 B材料300個（@800円）を掛で仕入れた。
- ③ 13日 9日に仕入れたB材料のうち3個を品違いのため返品した。

日商簿記2級工業簿記
ステップアップ問題集

解答・解説編

① 原価の分類

テキスト▶P.4

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 営業用自動車の減価償却費 (△) | 2. 工場の電力料 (○) |
| 3. 本社建物の減価償却費 (×) | 4. 製品製造のための材料費 (○) |
| 5. 本社の事務用消耗品費 (×) | 6. 営業所従業員の給料 (△) |

② 原価の分類

テキスト▶P.4

製造直接費 675,000 円

製造間接費 600,000 円

製造原価 1,275,000 円

総原価 1,500,000 円

③ 原価の分類

テキスト▶P.5

1	A	2	A	3	B
4	A	5	D	6	B
7	C	8	A	9	A
10	A	11	D	12	C
13	D	14	C	15	B
16	A	17	B	18	A

解説

5. 火災による損失額は、異常な原因で発生した費用であるため、非原価項目となる。

11. 金融上の費用（財務活動から生じる費用）であり、非原価項目となる。

13. 企業が獲得した利益から計算し、支払われる費用であり、非原価項目となる。

④ 工業簿記一巡

テキスト▶P.8

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	材料	400,000	買掛金	400,000
②	仕掛品	350,000	材料	390,000
	製造間接費	40,000		
③	賃金給料	180,000	預り金	20,000
			現金	160,000
④	仕掛品	130,000	賃金給料	180,000
	製造間接費	50,000		
⑤	経費	100,000	現金	100,000
⑥	仕掛品	39,000	経費	100,000
	製造間接費	61,000		
⑦	仕掛品	151,000	製造間接費	151,000
⑧	製品	396,000	仕掛品	396,000

材 料	
買 掛 金	400,000
仕 掛 品	350,000
製 造 間 接 費	40,000

賃 金 給 料	
預 り 金	20,000
仕 掛 品	130,000
現 金	160,000
製 造 間 接 費	50,000

経 費	
現 金	100,000
仕 掛 品	39,000
製 造 間 接 費	61,000

製 造 間 接 費	
材 料	40,000
仕 掛 品	151,000
賃 金 給 料	50,000
経 費	61,000

仕 掛 品	
材 料	350,000
製 品	396,000
賃 金 給 料	130,000
経 費	39,000
製 造 間 接 費	151,000

製 品	
仕 掛 品	396,000

⑤ 工業簿記一巡（製品の販売）

テキスト▶P.10

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
売 掛 金	500,000	売 上	500,000
売 上 原 価	400,000	製 品	400,000

解 説 販売価格 400,000円 × (100% + 25%) = 500,000円

⑥ 工業簿記一巡（月次決算）

テキスト▶P.10

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
①	月 次 損 益	4,800,000	売 上 原 価	3,300,000
			販 売 費	1,080,000
			一 般 管 理 費	420,000
	売 上	6,000,000	月 次 損 益	6,000,000
②	月 次 損 益	1,200,000	年 次 損 益	1,200,000

解 説 営業利益 6,000,000円 - 3,300,000円 - 1,080,000円 - 420,000円 = 1,200,000円

⑦ 工業簿記一巡

材料の購入および消費に関する仕訳

テキスト▶P.11

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
材 料	187,000	買 掛 金	187,000
仕 掛 品	100,000	材 料	181,000
製 造 間 接 費	81,000		

賃金給料の支払いおよび消費に関する仕訳

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
賃 金 給 料	240,000	預 り 金	28,000
		現 金	212,000
仕 掛 品	173,000	賃 金 給 料	240,000
製 造 間 接 費	67,000		

経費の支払いおよび消費に関する仕訳

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
経 費	180,000	現 金	180,000
仕 掛 品	35,000	経 費	180,000
製 造 間 接 費	145,000		

製造間接費の配賦に関する仕訳

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
仕 掛 品	293,000	製 造 間 接 費	293,000

製品の完成に関する仕訳

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
製 品	580,000	仕 掛 品	580,000

製品の販売（掛売上）に関する仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	672,000	売上	672,000
売上原価	560,000	製品	560,000

月次決算（収益、費用の振り替えおよび営業利益の振り替え）に関する仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額
月次損益	598,000	売上原価	560,000
		販売費	20,000
		一般管理費	18,000
売上	672,000	月次損益	672,000
月次損益	74,000	年次損益	74,000

⑧ 材料費会計（材料の購入）

テキスト▶P.13

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	材料	31,200	買掛金	30,000
			現金	1,200
②	材料	240,000	買掛金	240,000
③	買掛金	2,400	材料	2,400

⑨ 材料費会計（実際消費価格）

テキスト▶P.16

	借方科目	金額	貸方科目	金額
5日	材料	943,000	買掛金	943,000
11日	仕掛品	695,000	材料	695,000
13日	材料	52,200	買掛金	52,200
19日	製造間接費	205,000	材料	205,000
30日	製造間接費	50,400	材料	50,400
30日	製造間接費	8,200	材料	8,200

材			料		
9/1	前月繰越	85,400	9/11	仕掛品	695,000
5	買掛金	943,000	19	製造間接費	205,000
13	買掛金	52,200	30	製造間接費	50,400
			〃	製造間接費	8,200
			〃	次月繰越	122,000
		1,080,600			1,080,600

日商簿記2級

ステップアップ問題集 工業簿記



解答用紙

大原出版

本気になったら
大原

CONTENTS

1	原価の分類	P.2	51	単純総合原価計算	P.31
2	原価の分類	P.2	52	単純総合原価計算	P.31
3	原価の分類	P.2	53	単純総合原価計算	P.31
4	工業簿記一巡	P.3	54	単純総合原価計算	P.32
5	工業簿記一巡(製品の販売)	P.4	55	単純総合原価計算(損益計算書作成)	P.32
6	工業簿記一巡(月次決算)	P.4	56	単純総合原価計算(減損)	P.33
7	工業簿記一巡	P.4	57	単純総合原価計算(減損)	P.34
8	材料費会計(材料の購入)	P.6	58	単純総合原価計算(減損)	P.34
9	材料費会計(実際消費価格)	P.6	59	単純総合原価計算(仕損)	P.35
10	材料費会計(実際消費価格)	P.7	60	工程別総合原価計算	P.36
11	材料費会計(予定消費価格)	P.7	61	工程別総合原価計算(半製品)	P.37
12	材料費会計(材料副費、残材戻入)	P.8	62	工程別総合原価計算(仕損)	P.38
13	材料費会計(材料副費、予定消費価格)	P.8	63	組別総合原価計算	P.39
14	労務費会計(二勘定制)	P.9	64	組別総合原価計算	P.40
15	労務費会計(一勘定制)	P.9	65	組別総合原価計算	P.40
16	労務費会計(消費額の計算)	P.10	66	等級別総合原価計算	P.41
17	労務費会計(予定消費賃率)	P.11	67	等級別総合原価計算	P.41
18	労務費会計(予定消費賃率)	P.12	68	等級別総合原価計算	P.42
19	労務費会計(消費賃率の計算)	P.12	69	等級別総合原価計算	P.42
20	労務費会計(予定消費賃率)	P.12	70	標準原価計算	P.43
21	経費会計(経費の計算)	P.13	71	標準原価計算(仕掛品勘定の記入)	P.43
22	経費会計(経費の記帳)	P.13	72	標準原価計算(仕掛品勘定の記入)	P.44
23	経費会計(経費の記帳)	P.13	73	標準原価計算(仕掛品勘定・製品勘定の記入)	P.45
24	製造間接費会計(実際配賦)	P.14	74	標準原価計算(差異分析)	P.45
25	製造間接費会計(予定配賦)	P.14	75	標準原価計算(差異分析)	P.46
26	製造間接費会計(予定配賦)	P.14	76	標準原価計算(差異分析)	P.46
27	製造間接費会計(予定配賦)	P.15	77	標準原価計算(差異分析)	P.46
28	製造間接費会計(原因別分析・固定予算)	P.15	78	標準原価計算(差異分析)	P.47
29	製造間接費会計(原因別分析・公式法変動予算)	P.16	79	標準原価計算(差異分析)	P.47
30	製造間接費会計(操業水準)	P.16	80	標準個別原価計算(仕掛品勘定の記入・材料購入価格差異)	P.48
31	製造間接費会計(原因別分析・公式法変動予算)	P.17	81	標準原価計算における仕訳	P.48
32	部門別計算(実際の第1次集計)	P.17	82	損益分岐分析	P.49
33	部門別計算(実際の第2次集計・直接配賦法)	P.18	83	安全率・損益分岐点比率	P.49
34	部門別計算(記帳体系)	P.19	84	原価分解	P.49
35	部門別計算(実際の第2次集計・相互配賦法)	P.20	85	損益分岐分析	P.49
36	部門別計算(勘定記入)	P.20	86	損益分岐分析	P.49
37	部門別計算(補助部門費の予定配賦)	P.21	87	直接原価計算(損益計算書作成・固定費調整)	P.50
38	部門別計算(製造部の予定配賦率・配賦額の計算)	P.21	88	直接原価計算(損益計算書作成・損益分岐分析)	P.51
39	個別原価計算	P.22	89	直接原価計算(損益計算書作成・固定費調整)	P.52
40	個別原価計算(仕損)	P.22	90	直接原価計算(損益計算書作成・固定費調整)	P.53
41	個別原価計算	P.23	91	直接原価計算(3期間・損益計算書作成)	P.54
42	部門別個別原価計算	P.23	92	直接原価計算(3期間・損益計算書作成)	P.55
43	個別原価計算	P.24	93	工場会計の独立	P.56
44	個別原価計算	P.25	94	工場会計の独立(内部販売)	P.56
45	財務諸表	P.26			
46	財務諸表(製造原価報告書)	P.27			
47	財務諸表(製造原価報告書)	P.28			
48	財務諸表(損益計算書)	P.28			
49	単純総合原価計算	P.29			
50	単純総合原価計算	P.30			

① 原価の分類

テキスト▶P.4

解答・解説▶P.126

- | | | | |
|-----------------|----------|----------------|----------|
| 1. 営業用自動車の減価償却費 | () | 2. 工場の電力料 | () |
| 3. 本社建物の減価償却費 | () | 4. 製品製造のための材料費 | () |
| 5. 本社の事務用消耗品費 | () | 6. 営業所従業員の給料 | () |

② 原価の分類

テキスト▶P.4

解答・解説▶P.126

製造直接費 円

製造間接費 円

製造原価 円

総原価 円

③ 原価の分類

テキスト▶P.5

解答・解説▶P.126

1		2		3	
4		5		6	
7		8		9	
10		11		12	
13		14		15	
16		17		18	



HINT

各項目が、どの活動（製造活動、販売活動、管理活動）で発生したか、またそれぞれの活動は、主にどの場所（工場、営業所、本社）で発生するかを考えよう。なお、非原価項目は製造原価、販売費、一般管理費以外の金融上の費用や異常な原因で発生した費用などである。

4 工業簿記一巡

テキスト▶P.8

解答・解説▶P.126

解答用紙

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				
⑦				
⑧				

材 料

買 掛 金	仕 掛 品
	製 造 間 接 費

賃 金 給 料

預 り 金	仕 掛 品
現 金	製 造 間 接 費

経 費

現 金	仕 掛 品
	製 造 間 接 費

製 造 間 接 費

材 料	仕 掛 品
賃 金 給 料	
経 費	

仕 掛 品	
材 料	製 品
賃 金 給 料	
経 費	
製 造 間 接 費	
製 品	
仕 掛 品	

⑤ 工業簿記一巡（製品の販売）

テキスト▶P.10

解答・解説▶P.127

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額

⑥ 工業簿記一巡（月次決算）

テキスト▶P.10

解答・解説▶P.128

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
①				
②				

⑦ 工業簿記一巡

材料の購入および消費に関する仕訳

テキスト▶P.11

解答・解説▶P.128

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額

賃金給料の支払いおよび消費に関する仕訳

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額

経費の支払いおよび消費に関する仕訳

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額

製造間接費の配賦に関する仕訳

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額

製品の完成に関する仕訳

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額

製品の販売（掛売上）に関する仕訳

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額

月次決算（収益、費用の振り替えおよび営業利益の振り替え）に関する仕訳

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額

 HINT

問題資料の勘定より、工業簿記の勘定の流れをイメージして各取引の仕訳を考えよう。

⑧ 材料費会計（材料の購入）

テキスト▶P.13

解答・解説▶P.129

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
①				
②				
③				

⑨ 材料費会計（実際消費価格）

テキスト▶P.16

解答・解説▶P.129

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
5 日				
11日				
13日				
19日				
30日				
30日				

材 料

[illegible]

仕 掛 品

製造間接費	